

神奈川県立えびな支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度神奈川県立えびな支援学校第2回学校運営協議会
開催日時	令和6年10月3日(木)
開催場所	神奈川県立えびな支援学校
出席者	令和6年度えびな支援学校 学校運営協議会委員 8名 (欠席1名) 令和6年度えびな支援学校 学校運営協議会事務局等 8名
次回開催予定日	令和7年2月27日(木) 10:00
問合せ先	副校長 菅原 肇 TEL. 046-292-5612 fax. 046-292-5620
会議等経過	<p>1 開会、本日の流れの確認</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 学校長挨拶</p> <p>折り返し地点に来た前期の報告をして今後の意見をもらいたい。重点は授業実践、地域との連携、アドバイスが欲しい。人づくり、学び続ける職員像についてもご意見ほしい。</p> <p>4 学校評価部会</p> <p>○委員 ●学校職員</p> <p>○えびな支援との交流は、中央農業高校の生徒にとって、コミュニケーション能力や、どのようにわかりやすく説明するかななどの力をつける効果があると感じている。交流によってえびな支援にとってどのようなメリットがあったか。</p> <p>●えびな支援の子どもたちにとっても、同年代の生徒とコミュニケーションをとることは価値があり、農業に関する体験など実践的な活動を通して互いの理解が高まっているのを感じている。</p> <p>○同僚性の向上を図るための研修について教えてほしい。</p> <p>●小・中・高と知的、肢体部門があるため、普段は関わらない教員も多い。グルーピングで工夫をしており、様々な教員と関われるような設定をしている。研修の内容としては、「A部門の子どもたちのためにダンスを作ろう」や「雑談をしよう」などグループで協議やワークを行っている。</p> <p>○居住地交流では、特別支援学級だけでなく、通常の学級にもいつているのか。小・中学校の受入れが難しいような状況もあるのか。</p> <p>●通常の学級で交流している児童生徒もいる。回数を重ねていく</p>

	<p>と地域の学校からの活動の提案もある。ただ、新しく始める場合には丁寧にやる必要がある。</p> <p>○学校として通常の学級でやろうという共通認識はないのか。</p> <p>●まずは特別支援学級から交流をしていきたいという保護者の思いもあるので、尊重しながら進めている。慣れてきたところで提案することは考えている。</p> <p>○地域への公開研修会の対象はどの範囲か。えびな支援に入学していなくても、就労を目指しているような地域の方も対象か。</p> <p>●そういった方もターゲットだ。広く募集した。</p> <p>○えびな支援に入学を希望しても入れない子もいるのか。</p> <p>●小中学部については、保護者の思いも含めて、その子に応じた適切な教育の場を市教委が総合的に判断をしている。保護者も合意のもとそれぞれの学びの場に入學をしている。</p> <p>○わが子は高等部からの入学だが、入れないという感じではない。保護者と子どもと先生で協力して行きたい学校を選んで入学することができた。</p> <p>○第1回のコミュニティスクールで提案した「かかし祭」に参加してくれてうれしい。</p> <p>○地域の清掃などはもっとアピールをするとよい。</p> <p>●活動場所には看板を設置する予定で、活動中はのぼりを用意する。</p> <p>5 部会の報告</p> <p>1 回目の学校運営協議会を踏まえて部会の名称の整理を提案</p> <p>① 切れ目ない支援部会⇒「えびな中農連携部会」</p> <p>② えびっ子クラブ部会⇒えびっ子クラブ部会を含むかたちで「切れ目ない支援部会」</p> <p>会長：みなさん異論がないようであれば承認する。整理して進めるように。</p>
--	--